

第11課 背教と執り成し 9月13日

暗唱聖句:モーセは主のもとに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯し、金の神を造りました。今、もしもあなたが彼らの罪をお赦しくださるのであれば……。もし、それがかなわなければ、どうかこのわたしをあなたが書き記された書の中から消し去ってください。」(出エジプト記 32:31、32、新共同訳)

今週の聖句:出エジプト記 32:1～6、詩編 115:4～8、イザヤ 44:9、10、ローマ 1:22～27、
出エジプト記 32:7～32、イザヤ 53:4

今週の研究:モーセがイスラエルの宿営を離れたのはわずか 40 日間でしたが、どんなことが起こったでしょうか。神の民は神に背き、人間が造った偶像である金の子牛を拝みました。あれほど多くの力強いしるし、経験、奇跡を目撃したあとだというのに、どうして彼らはそんなことができたのでしょうか。

この恐ろしい背教の理由が何であれ、そこから私たちは、人間の罪深さだけでなく、その罪深さにもかかわらず、人間が神から慈しみ深く愛されていることについて、どんな教訓を得ることができるでしょうか。

月曜日:偶像礼拝は、神は神であり、人は人であるという神学的理解を否定します。偶像礼拝は、神と人との間の区別を消し去り(コヘ 5:1[口語訳 5:2])、神とのつながりを断ち切ります。それがあからさまで公然たるものであれ、心の中に隠されたものであれ、偶像礼拝は、主と私たちの関係をたちまち引き裂き、道徳的な下降スパイラルへ導くのです。次の日にイスラエルの人々が何をしたかについて聖書が記していることは、驚くに値しません。偶像に犠牲をささげたあと、彼らは宴会を始めたのでした。エレン・ホワイトはそれを、「エジプトの偶像礼拝をまねたもの」(『希望への光』163 ページ、『人類のあけぼの』第 28 章)と表現しています。

人間は、自分の偶像を作り出す天才です。自分自身の神を創造するだけでも十分に悪いことですが、次に人間は、その神々に仕えるようになります。創造主は、遅かれ早かれ、道徳的墮落につながるものに取って代えられてしまうのです。

火曜日:預言者エゼキエルにとって、偶像礼拝は神の民のあらゆる不幸の中心にあり、そこからほかのすべての罪が生じます(例えば、エゼ 8:1～18、20:1～44、22:1～12 参照)。私たちはしばしば、大昔の信者たちが人間の作ったさまざまな偶像を礼拝していたとき、なぜあれほどだまされやすく、修正不能だったのかと不思議に思うことがあります。私たちは決してそのようなことはしないと確信しています。私たちは本当に偶像から解放されているでしょうか。現代の偶像は、形は異なれども、同じような魅力を持っています。

偶像とは、神に代わるものであり、それが正しくないものだとわかっているにもかかわらず、私たちは繰り返し礼拝してしまいます。偶像は、神よりも私たちの想像力、愛情、時間、心を占領します。私たちの思考を奴隷化することさえあります。実際、私たちは、自分が目を注ぐもののようになり、自分の仕える「神」が何であれ、それよりも高尚になることはありません。

もし神があなたの人生の中心におられないなら、ほかの神々が神にとって代わるでしょう。もし神の生ける臨在を享受し、深めなければ、私たちは、ほかの何かや誰かに、自分の人生をささげることになります。私たちがキリストの代わりとするものは、さまざまな形をしているかもしれません。誇り、自己中心、お金、権力、セックス、食べ物、テレビ、麻薬、アルコール、不純な考え、ポルノ、娯楽、仕事、スポーツ、家族、ビデオゲーム、映画、買い物、思想、政治、音楽、地位、肩書き、成績などです。数え挙げれば、切りがありません。

この点に関して、私たちは非常に創造的で独創的です。良いもの、美しいもの、意味のあるものは、何でも偶像に変えることができます。偶像礼拝は、私たちの性格、考え方、愛着、社会生活を変えてしまうので、非常に危険です。それは私たちの自己認識を変え、真の人間関係を空虚で、結局のところ無意味な交流に置き換えてしまい、最終的に私たちを救うことができません。

木曜日：出エジプト記 32:32 で「赦す」と訳されている言葉は、「担う(負う)」または「運ぶ」という基本的な意味を持つ動詞で、例えばイザヤ 53:4 には、(イエスについて)「彼が担ったのはわたしたちの病」と書かれています。これは同じ動詞で、出エジプト記 32:32 では「赦す」と、イザヤ 53:4 では「担う」と訳されているのです。救いと赦しの過程、また神が私たちを救うために犠牲にされたものについて、なんと説得力のある洞察を与えてくれることでしょう。

確かに、モーセは主に、民の罪を「担う」ように求めており、言うまでもなく、それは数千年後に主が十字架でなされたことです。出エジプト記 32:32 は、身代わりによる贖罪という思想だけでなく、誰が(神ご自身が)身代わりになるのかも示しています。

この聖句は、赦しがどのように与えられるのかを示しています。神は、キリストによって私たちの罪を担ってくださいました。それこそが、私たちが赦されうる唯一の方法だったのです。それは、なんと力強い救済計画の表現であり、私たちを救うために神が犠牲にされたものを人類と全宇宙に明示していることでしょう。

今週の学びは、なぜこれほどまでに神さまの愛による導きを受けていながら、偶像礼拝に陥ってしまう人間の弱さについて学びます。火曜日の引用文を注意深く読んでください。偶像は他の宗教を信じることだけではないとはっきりと教えているのです。現在の日本では神さまではなくモノやお金などがわたしたちの中心となってしまっているのです。悪魔は神さまから人間が離れてしまったら、その方法はなんでも良いのです。火曜日の学びの真ん中あたりにたくさんのものが列記されています。わたしたちはそれを神さまの代わりにしたとは思わないにしても、そのものを得ることが人生の大きな目的になってしまっていることはあると思います。

けれども神さまを中心とするとはどういうことでしょうか。毎日朝夕の礼拝をかかさず、教会生活をしっかりと行い、そして献金をささげていけば良いのでしょうか。かたちはわたしたちを神さまにつなげる働き

をしますが、かたちを守ることでは自らを救うことはできません。わたしたちの人生では、いろいろなことが起こり、そして目の前のことに振り回されているうちに神さまのことを忘れてしまうこともしばしばあります。

神さまを中心にする、それは何かをしている状態が中心ではなく、神さまをあなたが最も頼りにしているものとするだけでないでしょうか。それは平穏な時には感じないかもしれません。けれどもあなたにとって助けが必要な時に誰にすがるかではないでしょうか。わたしは自分が神さまを中心にしていないかもしれませんが、他の何かが中心となっているわけでもない、平穏にただ過ぎてしまっていることが多々あると思います。それでも日ごとの祈りを礼拝などを通して神さまとのつながりを再確認して、神さまに活かされていることに感謝して生きようとする、その小さな歩みが神さまとのつながりを深めて行くのだと信じています。